

令和5年度

久留米市文化財専門委員会



- ◆ 日時 令和6年2月27日(火) 14:00～
- ◆ 会場 職員会館メルクス2階会議室

市民文化部文化財保護課

令和5年度 久留米市文化財専門委員会

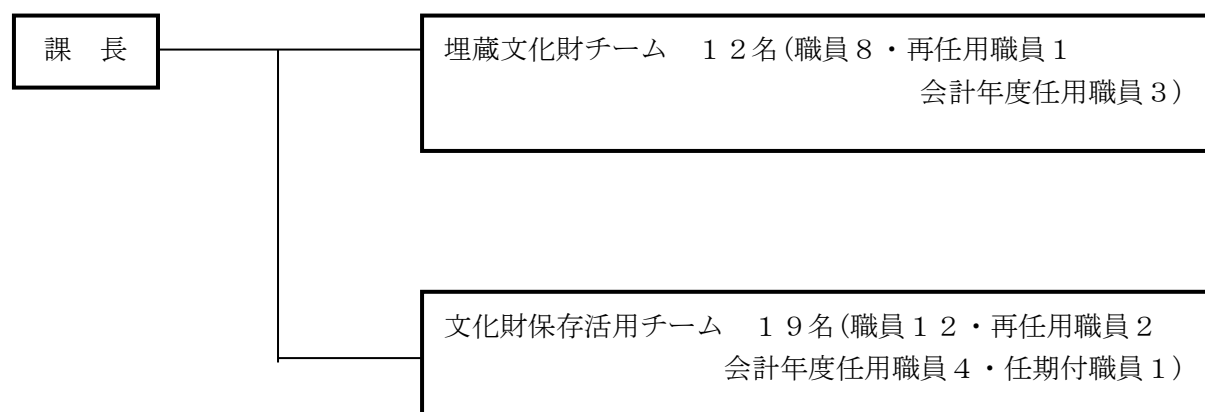
次 第

- 1 開会あいさつ
- 2 文化財専門委員の委嘱について
- 3 課長挨拶
- 4 会長・副会長選任
- 5 新会長・副会長挨拶
- 6 部会長選任
 - ・ 史跡部会
 - ・ 名勝天然記念物部会
 - ・ 有形文化財部会
 - ・ 無形文化財及び民俗文化財部会
- 7 令和5年度配属職員を紹介
- 8 報 告
 - (1) 令和4年度の事業報告 P 1 ～
 - (2) 令和5年度の事業概要 P24～
- 9 閉会あいさつ

(1) 令和4年度の事業報告

I. 文化財保護課の組織と業務概要

1. 組織



2. 事務分掌

- (1) 文化財の保護及び活用に関すること。
- (2) 文化財の指定及び管理に関すること。
- (3) 文化財専門委員会に関すること。
- (4) 文化財関係団体に関すること。
- (5) 埋蔵文化財に関すること。
- (6) 埋蔵文化財センターに関すること。
- (7) 収蔵館資料の収集、整理、保存及び利用に関すること。
- (8) 文化財収蔵資料審議会に関すること。
- (9) 収蔵館の維持管理に関すること。
- (10) 博物館の建設準備に関すること。
- (11) 歴史公園に関すること。
- (12) 坂本繁二郎生家に関すること。
- (13) 久留米市文化財保存活用地域計画協議会に関すること。

3. 業務概要

久留米市が有する歴史的資源の適正な保護とその活用に努めるとともに、市民が歴史や伝統を身近に感じ、親しみ、暮らしに活かす機会を提供することで、市民意識の醸成や地域文化の継承に役立ててきた。また、地域の活性化につなげるために、地域と連携した事業の展開を図ってきた。

また、「公益財団法人有馬記念館保存会」、「公益財団法人久留米耕技術保存会」を所管している。

(1) 文化財を守り伝える

- ① 歴史遺産の保存と活用の調和を生み出す仕組みづくりに取り組んだ。
- ② 歴史遺産の把握と調査・研究に努めた。
- ③ 歴史遺産の活用に関し、学校教育・社会教育における活用、まちづくり・地域振興への活用、観光振興への活用に取り組んだ。歴史資料の整理・保管と調査・研究のため、文化財保護課が所管する施設を生涯学習・教育活動の場として有効活用した。
- ④ 埋蔵文化財の発掘調査の迅速化に努め、調査成果の公表のため報告書の刊行を行った。また開発に先立つ事前確認において調整を行い、遺跡の現状保存に取り組んだ。
- ⑤ 有形・無形・民俗文化財やその他の文化財の積極的な調査と保存・活用に努めるとともに、記録の整理と活用に取り組んだ。

(2) 文化財に親しむ

- ① 市民の意識の高揚を図るため、文化財の周知、文化財保護の啓発・普及に努めた。
- ② 六ツ門図書館展示コーナーでの企画展等の開催、地域の歴史を学ぶ出前講座、学校の総合学習の時間における体験などにより、地域に根ざす文化財の学習と文化財に親しむ機会の提供に努めた。
- ③ 市民の文化財保護活動の充実、促進を図るために、文化財保護団体等への活動支援を行うとともに、筑後川遺産を活用した市民との協働のまちづくりを推進した。
- ④ 市民が文化財に親しみ理解することができるように、説明板等の整備や歴史のまち久留米ストーリーシートの作成に取り組んだ。
- ⑤ 歴史資料等の活用を努めるため、企画展等を開催するとともに、市民からの問い合わせへの回答や資料貸出等に、収集資料を活用した。

(3) 文化財を暮らしに生かす

- ① 筑後国府跡や高良山神籠石などの史跡の保存を図り、環境整備を進めるとともに、市民の地域と歴史についての学習、小中学校の野外学習やレクリエーション、憩いの場としての史跡活用促進にも努めた。
- ② 市内に現存する歴史的建造物などを調査し、貴重な物件は歴史的文化遺産として指定・登録等を行い、必要に応じて修理・復元を行いながら、市民の暮らしの中で、地域学習や生涯学習などに活かすとともに、観光資源として活用を図った。

◎主な事業の概要

| 事業名 | 事業概要 | 予算額（千円） | 予算額（千円） |
|---------------------------|---|-----------|-----------|
| | | 令和4年度 | 令和5年度 |
| 筑後国府跡 歴史公園整備事業 | 史跡筑後国府跡は、律令期における筑後国の中心的な施設で、久留米の都市づくりの原点といえる。この古代都市の歴史的・文化的価値を将来に亘って継承することを目的に公有化を進めている。令和5年3月末時点において、指定面積の86.63%を公有化した。整備後は多くの市民活動の場として、また、周辺の地域資源活動の拠点施設として活用を図る。 | 計 36,867 | 計 321,457 |
| 史跡等環境整備活用 事業 | 市民が歴史に親しみながら憩う場として、史跡等を適正管理し、地域の特性を生かした「歴史の広場」として整備を進め、まちづくりの素材としても多くの場面で活用を図った。 | 計 10,327 | 計 12,288 |
| 歴史ルートづくり 事業 | 市内の豊かな歴史・文化の保存継承と歴史遺産の地域資源としての活用のために、地域固有の歴史的なストーリーを整理し、情報を発信した。拠点となる歴史遺産の管理や高良山総合調査の基礎調査を継続して実施した。歴史ストーリーをまとめたストーリーシートの作成やイベント実施による情報発信を行った。 | 計 3,715 | 計 4,062 |
| 歴史的建造物保存 整備事業 | 市内に残る歴史的価値のある建造物の調査・保存・整備・活用を図り、市民が身近な場所で歴史を感じながら暮らすことのできるまちづくりを推進した。登録文化財対象の建物調査を実施し、令和4年度は篠山神社が国の登録有形文化財となった。 | 計 2,535 | 計 2,561 |
| 文化財施設維持補修 事業 | 収蔵資料の保存及び施設の適切な維持管理のため、必要な施設の設置、改修または補修を施すことで、文化財の活用を図った。 | 計 15,136 | 計 21,751 |
| 発掘調査事業 | 貴重な国民の共有財産である埋蔵文化財を、開発等により現状保存措置がとれない場合は、記録保存のため、発掘調査を行った。出土遺物や発掘調査結果の整理を行い、報告書を刊行した。 | 計 162,554 | 計 150,488 |
| 埋蔵文化財センター 事業 | 発掘調査に伴う出土品や記録類を集中管理している。市民の多様な文化的活動の展開を拡大するための支援事業等を実施した。収蔵資料の整理を行い、適正な保存管理を図った。 | 計 2,278 | 計 2,345 |

| 事業名 | 事業概要 | 予算額（千円） | |
|------------------|--|----------|---------|
| | | 令和4年度 | 令和5年度 |
| 文化財保護団体等 育成事業 | 建造物や美術工芸品など有形文化財の管理団体、祭りなど無形文化財の保護団体、および郷土史研究会に対して補助金を交付し、文化財の保護を図った。文化財保護団体10団体、指定文化財管理10団体。 | 計 1,288 | 計 1,418 |
| 坂本繁二郎生家 活用事業 | 久留米城下町に唯一残る武家屋敷である坂本繁二郎生家（市指定文化財）を保存・活用し、後世へ伝えるために、適正な運営と効果的な幅広い活用事業を行った。令和4年度は地元のイベントコースに組み込むなど、生家の活用と広報を行った。 | 計 322 | 計 320 |
| 歴史資料保存活用 事業 | 地域文化を守り、継承するため、歴史資料の収集と適正な保存管理を図った。 また、六ツ門図書館展示コーナーにおいて常設パネル展示のほか、2回の企画展を行った。このほか、令和4年度より「新収蔵資料紹介コーナー」を設け、新たに収蔵した資料の中から、毎月テーマを設けた収蔵資料の展示公開を行った。 | 計 7,717 | 計 8,035 |
| 有馬記念館活用事業 | 有馬記念館の収蔵資料を保存・活用して、久留米の江戸時代や郷土の歴史に関する情報を公開展示した。4年度は、「有馬家と久留米城下町」を柱に据えた常設展をベースにして、資料保存の観点から必要に応じて展示替えを行った。企画展「久留米藩と村の人々」を開催した。 | 計 10,172 | 計 9,787 |

II. 文化財の指定・登録

1. 指定文化財の状況—令和4・5年度の指定・登録状況—

ここでは令和4・5年度末における久留米市内の指定・登録文化財の状況について説明する。令和4年度は新規の国重要文化財（有形文化財）1件の答申と新規の国登録有形文化財4件が告示され、令和5年度は国重要文化財（有形文化財）指定に伴う県指定文化財（有形文化財）解除1件、新規の国登録有形文化財2件が答申された。令和6年2月1日現在で、国指定文化財30件、県指定文化財42件、市指定文化財106件、国登録文化財13件である。

久留米市内の指定・登録文化財一覧表

| 指定種別 | 総数 | 有形文化財 | | | | | | | | | | 無形文化財 | 有形民俗文化財 | 無形民俗文化財 | 史跡 | 名勝 | 天然記念物 | 選定保存技術 | 登録文化財 |
|------|-----|-------|-----|----|----|-----|----|----|-----|------|------|-------|---------|---------|----|----|-------|--------|-------|
| | | 総数 | 建造物 | 絵画 | 彫刻 | 工芸品 | 書跡 | 典籍 | 古文書 | 考古資料 | 歴史資料 | | | | | | | | |
| 総数 | 191 | 85 | 22 | 11 | 18 | 9 | 3 | 0 | 7 | 12 | 3 | 1 | 31 | 10 | 24 | 1 | 26 | 0 | 13 |
| 国 | 43 | 15 | 3 | 3 | 4 | 2 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 10 | 0 | 3 | 0 | 13 |
| 県 | 42 | 22 | 8 | 4 | 3 | 3 | 1 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 5 | 2 | 6 | 0 | 7 | 0 | 0 |
| 市 | 106 | 48 | 11 | 4 | 11 | 4 | 0 | 0 | 6 | 9 | 3 | 0 | 26 | 7 | 8 | 1 | 16 | 0 | 0 |

(令和6年2月1日)

2. 新規に指定された文化財

(1) 高良大社文書（百四十六通） 15巻、18冊、17通 （国指定重要文化財）

指定年月日：令和5年6月27日

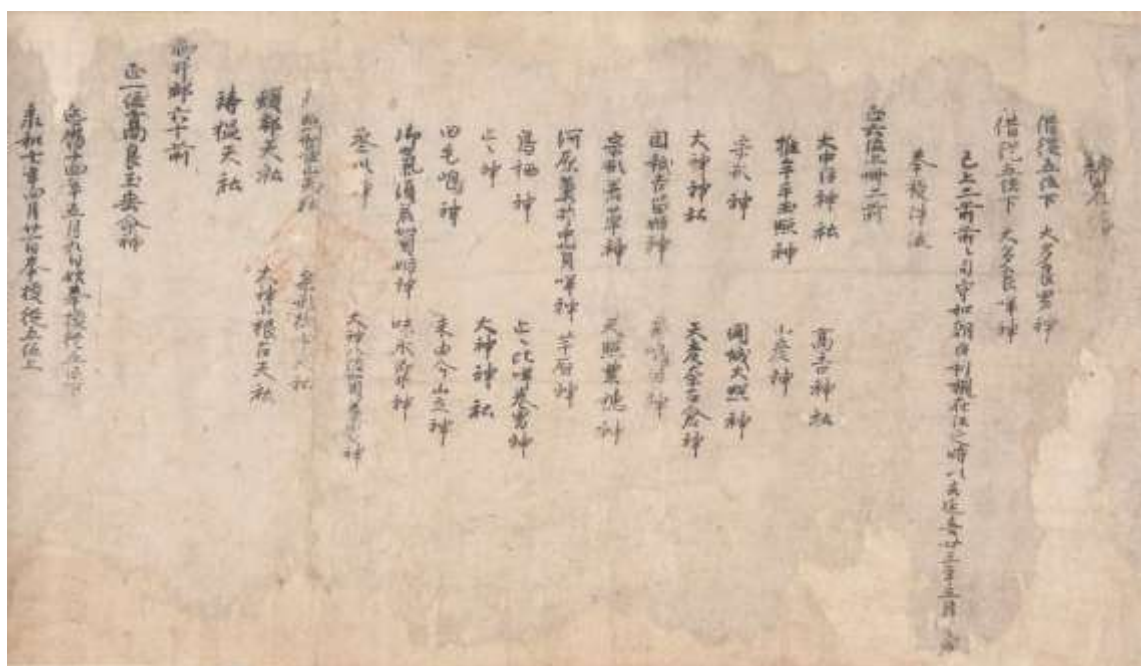
所在地の場所：久留米市御井町1番地

所有者の氏名または名称および住所：宗教法人高良大社（久留米市御井町1番地）

時代：平安～明治時代

区分：古文書

概要：高良大社は筑後国一宮であり、高良山の中腹にある。本文書群は、江戸時代以前に、大祝職を務めた鏡山家、大宮司職を務めた宗崎家、神仏混淆のなかで仏教を司る座主家の三家に伝わった文書から構成され、年代は平安～明治時代（10～19世紀）に及ぶ。特に天慶7年（944）の筑後国解写は、筑後国内の神々の名称を書き上げたもので、日本最古の国内神名帳の内容を伝える。また、室町～安土桃山時代に九州の諸大名やその家臣が三家に宛てた文書が豊富であり、九州の歴史上、極めて貴重な内容を有する文書群である。



高良大社文書（百四十六通）のうち筑後国解写（神名帳）

3. 新規に登録予定の文化財

(1) 旧國武合名会社倉庫（国登録有形文化財）

答申年月日：令和5年11月24日

所在地の場所：久留米市日吉町71番地4

所有者の氏名または名称：個人

時代：大正11年（1922）

区分：建造物

概要：久留米旧城下に位置する久留米緋製造販売業の旧店舗および倉庫。旧店舗は木造2階建ての入母屋造で、その北側に木骨煉瓦造の倉庫が接続している。屋根は椽瓦葺で、腕木を重ねた出桁が廂を廻らす豪壮な外観である。旧店舗の西妻側には社標が掲げられ、建物のアクセントとなっている。



(2) 旧國武合名会社倉庫（国登録有形文化財）

答申年月日：令和5年11月24日

所在地の場所：久留米市日吉町116番地6

所有者の氏名または名称：個人

時代：明治時代後期

区分：建造物

概要：久留米旧城下に位置する久留米緋の旧倉庫。二階建ての^{もっこつれんがづくり}木骨煉瓦造で、外壁は^{こうさいれんが}鉦滓煉瓦を小口積みにしている。建物内部の各階は板敷で、天井はなく和小屋の小屋組みが見える造りとなっている。中央西寄りにアーチ型の鉄扉を備えた入り口があり、社標が掲げられている。地域の歴史的景観をつくる貴重な建物といえる。



Ⅲ. 埋蔵文化財調査事業の概要

1. 埋蔵文化財事前確認

令和4年度の窓口受付件数は672件で前年度比7.5%減である。内訳は対象外354件、要調査301件、事業進捗状況に伴い未回答のもの17件である。要調査件数が前年度比で6.5増加した。包蔵地での開発や建築が増加している点が注目される。要調査のうち、設計変更や協議によって調整を図り、工事立会もしくは慎重工事での対応が251件で、発掘調査と回答した50件の内、発掘調査の対応を行ったのは16件であった。窓口での事前照会件数（電話・FAX・メール対応含む）は、年間で合計4,601件に上り、こちらは前年度比4.5%の増加である。

「埋蔵文化財包蔵の有無について」の照会件数の推移

| 年度 | 受付件数 | 対象外 | 要調査 | 要調査のうち | | | 未回答 |
|------|------|------|------|--------|------|-----|-----|
| | | | | 保存調整 | 発掘調査 | 未調査 | |
| 30年度 | 714件 | 453件 | 240件 | 200 | 5 | 35 | 21 |
| 元年度 | 634件 | 425件 | 209件 | 194 | 12 | 3 | 32 |
| 2年度 | 600件 | 384件 | 205件 | 164 | 19 | 22 | 11 |
| 3年度 | 723件 | 424件 | 283件 | 241 | 18 | 24 | 16 |
| 4年度 | 672件 | 354件 | 301件 | 251 | 16 | 34 | 17 |

*保存調整とは工事立会・慎重工事での対応、未調査には売買・事業取消しを含む。

*未回答とは事業の進捗状況等のため、当該年度内において回答に至っていないもの。

2. 発掘調査

(1) 発掘調査及び整理作業

令和4年度に実施した発掘調査は、以下の通り前年度から継続の2地点と新規16地点で実施した。新規分の調査原因は公共の県事業3件、民間受託事業5件、個人住宅等の国庫補助事業8件である。

整理作業については、調査事務所において発掘調査報告書刊行の遺跡の出土遺物の作業を中心に実施。主な作業内容は、遺物の洗浄・復元・実測及び報告書刊行分の埋蔵文化財センターへの搬入前の登録作業である。

| 調査番号 | 調査名 | 調査期間 | 調査原因 | 調査面積 | 担当者 |
|--------|--------------|---------------------|------|-----------------------|-----|
| 202105 | 益生田古墳群第5次調査 | 令和3年4月15日～令和5年度継続中 | 保存目的 | 11,694 m ² | 江島 |
| 202114 | 庄屋野遺跡第8次調査 | 令和3年12月1日～令和4年6月21日 | 宅地造成 | 1,606 m ² | 長谷川 |
| 202201 | 筑後国府跡第312次調査 | 令和4年4月18日～令和4年5月23日 | 宅地造成 | 64 m ² | 西 |
| 202202 | 筑後国分尼寺跡第2次調査 | 令和4年4月11日～令和4年4月26日 | 個人住宅 | 50 m ² | 小川原 |

| 調査番号 | 調査名 | 調査期間 | 調査原因 | 調査面積 | 担当者 |
|--------|----------------|-----------------------|-------|------|-----|
| 202203 | 庄屋野遺跡第9次調査 | 令和4年4月11日～令和4年4月22日 | 宅地造成 | 270㎡ | 大隈 |
| 202204 | 高三瀨遺跡第13次調査 | 令和4年6月9日～令和4年7月14日 | 建売住宅 | 146㎡ | 廣木 |
| 202205 | 高倉遺跡第2次調査 | 令和4年7月5日～令和4年7月29日 | 個人住宅 | 309㎡ | 小川原 |
| 202206 | 念仏塚遺跡第8次調査 | 令和4年7月4日～令和4年7月29日 | 道路建設 | 238㎡ | 西 |
| 202207 | 庄屋野遺跡第10次調査 | 令和4年9月8日～令和4年9月22日 | 個人住宅 | 59㎡ | 長谷川 |
| 202208 | 庄屋野遺跡第11次調査 | 令和4年9月8日～令和4年9月22日 | 個人住宅 | 95㎡ | 長谷川 |
| 202209 | 久留米城下町遺跡第31次調査 | 令和4年10月6日～令和4年12月15日 | 共同住宅 | 205㎡ | 廣木 |
| 202210 | 庄屋野遺跡第12次調査 | 令和4年11月8日～令和4年11月28日 | 個人住宅 | 89㎡ | 長谷川 |
| 202211 | 庄屋野遺跡第13次調査 | 令和4年11月8日～令和4年11月28日 | 個人住宅 | 89㎡ | 長谷川 |
| 202212 | 庄屋野遺跡第14次調査 | 令和4年11月8日～令和4年11月28日 | 個人住宅 | 9㎡ | 長谷川 |
| 202213 | 今泉遺跡第9次調査 | 令和4年11月11日～令和4年12月26日 | 道路建設 | 610㎡ | 西 |
| 202214 | 安武三反野遺跡第7次調査 | 令和5年1月10日～令和5年5月26日 | 道路建設 | 705㎡ | 西 |
| 202215 | 二本木遺跡第32次調査 | 令和5年2月6日～令和5年3月31日 | 宅地造成 | 299㎡ | 長谷川 |
| 202216 | 赤司定格遺跡第3次調査 | 令和5年2月13日～令和5年3月28日 | 農業用倉庫 | 309㎡ | 小川原 |

(2) 現地説明会

令和4年度は実施せず。

(3) 今後の課題

令和4年度も新型コロナウイルス感染症が収束しない中であって、包蔵地における民間開発や建築は増加傾向にあった。令和2年6月1日に施行された開発許可等に関する条例の改正で、駅周辺半径500m圏内の市街化調整区域を対象とする開発規制が緩和されたことも加わり、西鉄津福駅西側の庄屋野遺跡に全48区画（約13,900㎡）の大型宅地分譲開発が計画された。令和3年度末から道路部分の調査を開始し、令和4年度第1四半期で調査を終了した後も、保存調整が不可能だった個別区画の調査に忙殺された。

一方、重要なテーマである情報発信に関しては、えーるピア久留米において展示会の開催を行った。なお、発掘調査の件数に比して現地説明会の開催ができなかったのは反省すべき点である。

全体的な課題としては、整理作業時間の確保や、出土品の保管場所の確保、恒常的な調査員不足等が挙げられるが、整理作業に関しては実測・トレース、写真撮影の一部で民間支援機関への委託を導入しているのに加え、発掘調査についても浮羽バイパスと北野バイパスの県道事業については、福岡県文化財保護課に発掘調査を依頼して対応している。

3. 埋蔵文化財センター事業

(1) 令和4年度の概要

国庫補助事業「地域の特性を活かした埋蔵文化財活用事業」を受け、出土品の整理作業を行った。この事業は、平成29年度より継続しており、筑後国府跡の調査で得られた資料の収納形態及び検索体系を整え、資料の有効な活用・公開を行うことを目的としている。令和4年度は、朝妻・三丁野地区出土品の再点検作業を行った。合わせて令和元年度より行っている久留米城下町遺跡第2次調査の再整理について、呉服町地区の遺物再点検・台帳整理を進め、終了した。

体験学習・普及活動は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。

この他、発掘調査および報告書が刊行された遺跡については、出土品を含む記録類の受け入れを行い、資料の貸出や閲覧に対応できるよう情報を管理し、収蔵している。

(2) 入館者数

令和4年度の当センター入館者総数は653人であった。元年度までの1,100人以上の入館者数からすると大幅減となったが、11月に「えーるピア久留米」を主会場として多くの子どもや保護者が参加していた「マナビィランド」も中止となったことによる。

令和4年度月別入館者推移一覧

| 月別 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 (人) |
|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|-----|-----------|
| 人数 | 64 | 48 | 51 | 46 | 48 | 47 | 67 | 40 | 43 | 54 | 49 | 105 | 653 |

(3) 資料活用

①資料貸出

学校や地域、さらには学術研究や印刷物掲載にかかる目的で、資料の貸出申請が7件85点においてあり、そのすべてを受付後に許可した。申請者は、学校2件、博物館・資料館6件、他市町村教育委員会1件である。

②資料の掲載

当センターの収蔵資料を印刷物に掲載する申請が8件46点提出された。

この申請について全てを許可した。申請者は、個人1件、団体2件、学術研究機関2件、報道機関2件、有馬記念館1件である。

③資料の閲覧

研究や資料調査にかかる目的で8件の閲覧申請があり、館内特別閲覧の許可を行なった。

申請者は、個人2件、博物館・資料館5件、団体1件である。

④施設利用

センター内の団体による施設見学・展示案内と解説などは2件であった。

(4) 地域の特性を活かした埋蔵文化財活用事業

令和4年度における国庫補助事業「地域の特性を活かした埋蔵文化財活用事業」として、筑後国府跡の再整理を実施した。再整理後のコンテナ数は、次のとおりである。

筑後国府跡（第59 - 1～2次）

- ・新規1種遺物収納パンコンテナ総数 58箱

(5) 図書類

◆寄贈図書

報告書・紀要・図録類：764冊

◆購入図書

定期購読：『考古学ジャーナル』No.768～779（ニュー・サイエンス社）

『文化財発掘出土情報』通巻491号～502号（株）ジャパン通信情報センター）

IV. 文化財保存・整備事業

令和4年度に係る事業は、収蔵資料の補修1件、建造物関連事業2件、史跡等の整備に係る事業2件、名勝・天然記念物保存事業1件、歴史資料調査事業1件、文化財保存活用地域計画の筑後川遺産認定事務2件を行っている。

1. 有形文化財・民俗文化財

(1) 収蔵資料補修事業

令和4年度の収蔵資料補修事業は、「絹本着色有馬^{てるひさ}照長肖像」について、熊本市の富永米山堂に委託し、令和4年5月から令和5年3月まで、富永米山堂工房にて実施した。

有馬照長（1781～1851）は、8代藩主頼貴より頼徳・頼永・頼咸の4代藩主の国老職を歴任した人物で、名家老として藩士並びに領民の尊敬を集めた。和漢の学に造詣が深く、漢学を樺島石梁に師事した。享年71。

本資料は、絵の具の剥落はあまりないものの、絹本の本市に虫損が数カ所見受けられた。本紙の折れは少ないが、シミが複数発生している状況であった。表具裂には、虫損の発生が多数見受けられ、特に天地の裂に虫損が甚だしく、糊浮き及び糊離れも見受けられた。掛緒が切れており、展示開陳に適さない状況であった。

修復作業は、本市の旧裏打紙の除去を行い、美濃紙と混合糊にて肌裏打ちを行った。虫損箇所は似寄りの補修絹で行った。絵の具の剥落止めを行い、本市の折れを中心に折り伏せを入れた。必要に応じ裁断し長さを整えた後、軸装に整え、太巻芯を添えた。

(2) 建造物関連事業

①歴史的建造物等調査事業

令和4年度は、草野町に所在する須佐能袁神社の詳細調査を行った。この調査は国庫補助事業（近代風建築等総合調査）として3カ年の継続事業で、本年度は初年度にあたる。須佐能袁神社は建久8年（1197）に草野永平が勧請したとされ、草野家滅亡後は草野町の氏神として祀られてきた。現在の社殿は明治19年（1886）に竣工したもので、棟梁は岡崎吉兵衛、彫刻は村石繁造の作である。社殿は権現造に起源をもつ豪壮な複合社殿で、本殿を壮麗な彫刻で飾る。昭和32年に県指定有形文化財となっているが、近代和風建築としての価値を再評価し、久留米市を代表する歴史的建造物として保存・活用を図って行く。令和6年度に報告書の刊行を予定している。

また、令和3年度に国登録有形文化財（建造物）の意見具申を行った篠山神社は、令和4年10月31日に登録された。

2. 記念物

(1) 史跡等の整備に係る事業

① 筑後国府跡歴史公園整備事業

令和4年度は、令和元年度に作成した保存活用計画に基づき史跡地の維持管理を実施するとともに、今後の用地取得に向け、移転補償費算定のための物件調査1件、物件再算定1件、測量調査1件を実施した。また阿弥陀地区1件(199.47 m²)の用地取得を行った。令和4年度末の公有化面積は、36,563.71 m²(台帳及び実測面積)で、国・市有地を含めると公有化率は、86.63%である。

② 史跡等解説板の改修

市内に所在する史跡等の解説板について、老朽化により判読できないものなど4件を改修した。

(2) 名勝・天然記念物保存事業

① 県指定天然記念物「柳坂曾根のハゼ並木」剪定事業

例年1月下旬から2月上旬に地元と協力を図り、剪定作業を行っているが、令和4年度は高所部分の一部の剪定と施肥のみ実施している。

3. 歴史ルートづくり事業

(1) 高良山総合調査

12月4日(日)、シンポジウム「歴史をつなぐ高良山の文化財」(久留米大学御井本館)を開催した。参加者は140名、内容は平成29～令和元年度の第1次調査「高良大社所蔵歴史資料」(国庫補助)の成果報告、高良山の文化財に関わる各団体の事例報告、今後の文化財の保存活用に向けてパネルディスカッションを行った。これに関連して12月3日(土)・4日(日)、高良大社宝物特別公開(主催:高良大社)が開催され、国の重要文化財となる「高良大社文書(百四十六通)」が一部公開された。なお、シンポジウム及び特別公開については、『高良山ーその歴史と文化ー』創刊号(令和5年10月、高良大社)にまとめられている。

第2次調査「福聚寺所蔵歴史資料」(合川町、令和2年度～)では、『久留米市文化財調査報告書第二十二集 慈雲山福聚寺所蔵品目録』(昭和54年)以来の所在確認調査と、保存環境整備を実施している。令和2年度の古文書・墨跡(県補助)、令和3年度の絵画に続き、令和4年度は陶磁器類の調査を実施した。また、11月10日(木)には令和3年度に続き、第2回久留米藩祈願寺・慈雲山福聚寺の曝涼(関係者のみ公開)を実施した。

第3次調査「旧高良山大猷院殿石燈籠」(本町、令和2年度～)では、実測及び拓本調査のデータ整理を行った。

第4次調査は、科学研究費助成事業(基盤CC)「高良玉垂宮の仏教美術の研究ー九州山岳霊場における神仏習合と神仏分離の一樣相ー」(研究代表者・國生知子)との相互協力により、「国分寺所蔵歴史資料」(宮ノ陣)に着手し、書画類を中心に概要調査を実施した。

(2) 情報発信事業

ストーリーシート9「はじまりは足袋^{たび} ゴムのまち久留米の歩み」を発行し、本市を代表する産業であるゴム産業に関するストーリーの周知を図った。また、六ツ門図書館展示コーナーにおいて久留米市文化財保存活用地域計画と筑後川遺産に関する企画展「筑後川遺産展－城島の酒蔵・田主丸の祭り－」（会期：令和5年9月23日～12月10日）を実施した。

(3) 拠点管理事業

所管する歴史公園や史跡の管理清掃、草刈り、樹木剪定を行い、市民が来園・来訪しやすい拠点づくりに取り組んだ。また、災害を未然に防ぐために、高良山神籠石指定地の樹木伐採や、国史跡「下馬場古墳」の樹木伐採など、史跡の保護にも取り組んでいる。

V. 文化財管理事業

1. 文化財保護団体育成補助事業

文化財保護課では、地域の文化財を保護育成するため、文化財保護団体や地域活動団体等へ補助金を交付している。

令和4年度は、10団体（※）に補助金を交付した。

※重複団体は1団体として計算

（1）文化財保護団体（7団体）

- | | |
|-----------------|----------------------------|
| ①大善寺玉垂宮鬼夜保存会 | 重要無形民俗文化財「大善寺玉垂宮の鬼夜」管理団体 |
| ②花火動乱蜂保存会 | 県指定無形民俗文化財「動乱蜂」管理団体 |
| ③北野天満神社神幸行事保存会 | 県指定無形民俗文化財「北野天満神社神幸行事」管理団体 |
| ④若宮八幡宮御神幸祭実行委員会 | 市指定無形民俗文化財「若宮八幡宮の神幸行事」管理団体 |
| ⑤高良山同志会 | 市指定無形民俗文化財「高良山獅子舞」管理団体 |
| ⑥御井町風流保存会 | 市指定無形民俗文化財「御井町風流」管理団体 |
| ⑦八丁島御供納保存会 | 市指定無形民俗文化財「八丁島の御供納」管理団体 |

（2）研究会・文化財を活かした地域活動団体（3団体）

- ①久留米郷土研究会
- ②山川校区郷土研究会
- ③田主丸郷土会

（3）用具修理等（1団体）

- ①若宮八幡宮御神幸祭実行委員会

2. 文化財施設・史跡等管理事業

文化財保護課が所有している施設及び指定史跡を5団体及び個人1名と随意契約にて管理委託し、指定史跡3ヶ所の草刈りについては、指名競争入札により業者に業務委託している。

（1）指定文化財の管理業務

【団体委託】

- ・浦山古墳 国指定史跡 保存庫の施錠管理、見学者の対応。成田山久留米分院
- ・高良山神籠石 国指定史跡 高良山神籠石の清掃、見回り点検。高良大社
- ・日輪寺古墳 国指定史跡 保存庫の施錠管理、見学者の対応。日輪寺
- ・目安町の一里塚 市指定史跡天然記念物 市有地の草刈り、清掃を年3回実施。安武校区まちづくり振興会
- ・吉積遺跡公園 市指定史跡 公園内の草刈り、清掃、見回り点検。赤司一区自治会

【個人委託】

- ・大善寺旧庫裡 市指定有形文化財（建造物） 旧庫裡の施錠管理、清掃、点検。個人

【業者委託】

- ・筑後国府跡 国指定史跡 市有地の草刈り、清掃。年4回実施
- ・安国寺甕棺墓群 国指定史跡 市有地の草刈り、清掃。年4回実施
- ・田主丸大塚古墳 国指定史跡 市有地の草刈り、清掃、消毒、施肥。年3回実施

（2）歴史公園管理業務

以下の施設の管理業務について、地域団体等に委託している。

- ・おおはし歴史公園 県指定有形文化財（建造物）である石浦大橋を含む公園の日常管理・清掃、草刈り、公衆用トイレの清掃
- ・御塚・権現塚史跡の広場 国指定史跡である御塚古墳、権現塚古墳と公園の日常管理・清掃、草刈り、公衆用トイレの清掃
- ・大塚古墳歴史公園 国指定史跡である田主丸大塚古墳に隣接する歴史公園の日常管理・清掃、草刈り、公衆用トイレの清掃

3. 防犯・防災事業

（1）文化財防火デー

文化財愛護に関する意識の高揚を図る目的として、毎年1月26日を「文化財防火デー」と定めており、例年、久留米市でも関係機関とともに訓練を実施している。令和4年度は令和5年1月に大善寺町夜明の朝日寺で火災防ぎょ訓練を実施した。

（2）防災施設設置及び管理事業

文化財を火災から守るための防災施設の保守点検等に関する補助金を交付している。

令和4年度は、次のとおり補助金を交付した。

| | | | |
|------------------|----------|------------|--------|
| ・梅林寺有馬家霊屋 | 重要有形文化財 | 防災設備保守点検事業 | 梅林寺 |
| ・高良大社本殿他 | 重要有形文化財 | 防災設備保守点検事業 | 高良大社 |
| ・善導寺木造善導大師坐像他 | 重要有形文化財 | 防災設備保守点検事業 | 善導寺 |
| ・専念寺木造阿弥陀如来立像 | 重要有形文化財 | 防災設備保守点検事業 | 専念寺 |
| ・無量寺木造阿弥陀如来立像 | 重要有形文化財 | 防災設備保守点検事業 | 無量寺 |
| ・国分寺地藏来迎図板碑 | 県指定有形文化財 | 防災設備保守点検事業 | 国分寺 |
| ・朝日寺木造神子栄尊坐像 | 県指定有形文化財 | 防災設備保守点検事業 | 朝日寺 |
| ・須佐能袁神社本殿、拝殿及び楼門 | 県指定有形文化財 | 防災設備保守点検事業 | 須佐能袁神社 |
| ・鹿毛家住宅 | 県指定有形文化財 | 防災設備保守点検事業 | 個人 |
| ・上野家住宅御成間 | 県指定有形文化財 | 防災設備保守点検事業 | 個人 |

VI. 歴史資料保存活用事業

昭和 58 年（1983）4 月に設置した久留米文化財収蔵館を中心に、歴史資料の調査・収集・保存・活用を進めている。

令和 4 年度の資料の収集は、寄贈 18 件（1,217 点）、採集 3 件（5 点）であった。

資料の活用は、貸出 11 件（75 点）、印刷物掲載等 44 件（163 点）、これ以外に研究利用等を目的とした閲覧や写真撮影 17 件（674 点）にも対応している。

1. 資料の収集・保存

（1）収集

①寄贈（1,217 点）

| 資料群名 | 時代 | 寄贈者 | 数量（点） |
|--------------------|---|-------|----------|
| 上野健三郎家資料（第 1 次） | 江戸時代～明治時代、近現代 | 上野健三郎 | 942 |
| 岡来蔵関係資料 | 江戸時代～昭和戦前期 | 岡テル子 | 32 |
| 戦時切手資料 | 昭和戦中～戦後期 | 匿名 | 2 |
| 和歌短冊三枚 | 江戸時代後期～明治時代初期 | 田堀雅尚 | 3 |
| 海山名所絵図 | 江戸時代後期 | 渡邊慶子 | 5 |
| 高松凌雲書簡および宇治田東岫書簡 | 明治 3～5 年頃 | 匿名 | 2 通 1 巻 |
| 御井町水天宮関係資料 | 明治時代～大正時代 | 平田洋一 | 3 |
| 三浦家資料（第 2 次） | 江戸時代後期～明治時代初期 | 三浦洸 | 10 |
| 堺家資料 | 明治時代～昭和戦後期 | 堺富美子 | 23 |
| 西原柳雨関連資料 | 江戸時代～昭和戦後期 | 井手香織 | 54 |
| 松崎家資料 | 江戸時代～昭和戦後期 | 松崎誠 | 6 件 25 点 |
| 昭和 28 年水害新聞記事スクラップ | 昭和 28 年（1953） | 高田澤子 | 1 |
| 権藤彌榮家資料 | 江戸時代～明治時代 | 権藤彌榮 | 124 |
| 荒巻羊三郎関係資料 | 元治元年（1864） 明治 8 年（1875） 明治 13 年（1880） | 森山優 | 4 |
| 辻（旧姓金原）家資料（第 3 次） | 昭和戦前期 | 辻美彌子 | 3 |
| 出征旗 | 昭和戦前期 | 室園哲也 | 1（参考 4） |
| 古川家資料（第 4 次） | 大正 4 年（1915） | 古川恒行 | 1 |
| 西田家資料（第 2 次） | 昭和戦前期 | 柿本富久子 | 2 |

②採集（5点）

| 資料名 | 時代 | 数量（点） |
|-----------------|-------|-------|
| 九州日報 | 昭和戦前期 | 3 |
| 手拭い ふるさとを唄う | 現代 | 1 |
| 日立パーソナルコンピュータH2 | 現代 | 1件3点 |

③刊行物

・寄贈図書：100冊

・定期購読：24冊

『月刊文化財』No.703～714（第一法規株式会社）

『博物館研究』Vol.57・No.4～Vol.58・No.3（公益財団法人日本博物館協会）

（2）保存

①燻蒸

・久留米文化財収蔵館（久留米市諏訪野町1830-6）

期 間：令和4年7月22日～25日

場 所：1・2・3階収蔵庫

1階床面積 86.989 m²×高さ 3.7m = 321.8593 m³

2階床面積 141.15 m²×高さ 3.0m = 423.45 m³

3階床面積 120.0 m²×高さ 2.85m = 342.00 m³

合計床面積：1087.3093 m³

薬剤は、殺虫効果、殺菌効果、即効性に優れた燻蒸薬剤エキヒュームS（酸化エチレン＋HFC134a）を使用

2. 資料の活用

（1）貸出（75点）

収蔵資料の貸出について申請が11件、75点提出され、この申請について許可した。

申請者別の件数は、個人2件、学校2件、他団体5件である。

（2）印刷物掲載等（163点）

収蔵資料を印刷物に掲載する申請が44件、163点提出された。この申請について許可した。

申請目的別の件数は、個人の研究等10件、他団体等の展示・広報15件、雑誌・書籍等への掲載10件、学校教育利用2件、報道7件である。

Ⅶ. 文化財の活用・周知普及

1. 公開・活用事業

(1) 久留米市立六ツ門図書館展示コーナー

平成 22 年 10 月、久留米市立中央図書館西分館が「くるめりあ六ツ門」5階に移転し、六ツ門図書館として開館した。

六ツ門図書館展示コーナーは、268 m²のスペースの内 168 m²のスペースを使い、様々な展示会を実施している。奥の一角に造り付けの居間及び台所、縁側などに家具や生活用品などを揃え、昭和 30 年代の暮らしの風景を再現した「昭和のおうち」(100 m²)を常設している。

令和 4 年度は 5 回の展示を行った。(下記一覧表参照)

また、例年、むかしのくらし展の期間にあわせて、小学校の団体見学を受け入れている。令和 2・3 年度は、新型コロナ禍の影響により中止していた。令和 4 年度は感染対策を行うことで、3 年ぶりに実施することができ、27 校 54 クラス (1,567 人) が来場した。

令和 4 年度からの新たな取り組みとして、「新収蔵資料紹介コーナー」を設け、令和元年度以降の新収蔵資料を紹介した。

令和 4 年度展示会一覧

| No. | 展示会名 | 会期 | 来場者数 (人) |
|-------|----------------------------------|--------------------|----------|
| 1 | カメラがとらえた久留米の 100 年 | 4 月 1 日～6 月 28 日 | 1,322 |
| 2 | 久留米歴史物語 —見つけ守り活かし伝える— | 7 月 30 日～10 月 4 日 | 1,680 |
| 3 | 久留米俘虜収容所の風景 —あるドイツ将校の写真帳でたどる— | 10 月 9 日～11 月 7 日 | 619 |
| 4 | 「多様な性を認め合う」 —性的少数者の人権パネル展— | 11 月 16 日～12 月 6 日 | 262 |
| 5 | むかしのくらし展 「くらしと道具のいま・むかし」 | 12 月 20 日～3 月 31 日 | 2,862 |
| 6 | 新収蔵資料紹介コーナー | 各月開催 | 165 |
| 総入館者数 | | | 9,338 |

※総入館者数は図書館によるイベント 861 人と小学校見学 1,567 人を含む。

※No. 3 は久留米大学との共催による展示。

※No. 4 は人権啓発センターによる展示

※No. 6 の来場者数は「新収蔵資料紹介コーナー」のみでの来場者数

(2) 久留米市埋蔵文化財センター

令和 4 年度は、企画展は行わず、常設展示のみ実施した。

(3) 坂本繁二郎生家活用事業

坂本繁二郎生家は、近代洋画の巨匠である坂本繁二郎の生家であると同時に、久留米市に唯一残る武家屋敷である。平成 15 年 7 月に久留米市有形文化財（建造物）に指定された。平成 18 年度から 4 年間をかけて修理復原工事を行い、平成 22 年 5 月 1 日から一般公開をしている。生家では、年間を通じて様々な体験講座を開催しており、文化財の周知普及に努めている。

令和 4 年度は福岡県の補助事業である「福岡県美しい景観形成推進補助事業」を活用し、茅葺屋根の差茅修繕を実施した。

【令和 4 年度】 年間来場者数：4,268 人 貸室件数：25 件

<季節行事>

| | 期間 | 内容 |
|-------|------------------------------------|---------------------|
| 七夕まつり | 令和 4 年 7 月 2 日（土）～ 8 月 7 日（日） | 来館者が短冊に願い事を書いて笹竹に飾る |
| ひなまつり | 令和 5 年 1 月 31 日（火）～ 3 月 26 日（日） | 坂本家に伝わる雛人形を展示 |

<体験事業>

令和 4 年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため体験型のイベント実施なし

<コンサート連携事業>

久留米市美術館・青木繁旧居・坂本繁二郎生家連携事業としてコンサートを実施した。

開催日時：令和 4 年 11 月 13 日（日）

(4) 歴史探訪

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和 4 年度は中止した。

(5) 久留米入城 400 年事業

令和 3 年度は、入城 400 年を記念した関連展示や記事の連載を行ったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、雅楽公演など一部事業を中止した。このため、令和 4 年度は、「入城 400 年プラス 1」とし、前年度中止とした 2 公演を実施した。この他、久留米城 3D 復元映像作成発表、関連情報の発信等を行った。

<公演>

| 企画名 | 概要 |
|---|---|
| 大名有馬家久留米入城 400 年記念 雅楽源氏物語関連企画 雅楽レクチャーコンサート 「雅楽はすごい！」 | 期間：令和 4 年 8 月 21 日（日） 会場：久留米シティプラザ 久留米座 内容：9 月に開催する雅楽本公演に先立ち、子どもたちを対象とした、レクチャーコンサート 来場者数：238 名 |

| 企画名 | 概要 |
|-------------------------------|---|
| 大名有馬家久留米入城400年記念 「雅楽 源氏物語」 | 期間：令和4年9月18日（日） 会場：久留米シティプラザ ザ・グランドホール 内容：有馬家と関係の深い東京楽所による雅楽公演 来場者数：1,000名 |

<地域との連携>

| 企画名 | 概要 |
|-----------------|--|
| オリジナルグッズの展開 | 内容：有馬記念館の事業として実施されたもの。地元事業者と連携し、入城400年にちなんだグッズを考案・提供。 ・オリジナルグッズ⇒14種 |
| 久留米城3D復元映像作成・発表 | 内容：久留米工業高等専門学校に協力を依頼し、久留米城の3D復元映像を作成。久留米工業大学の公開講座で発表し、市のホームページ上にて公開中。 |

<情報発信>

| 企画名 | 概要 |
|-------------|---|
| デジタルサイネージ活用 | 日時：令和4年7月～9月 内容：JR久留米駅にあるデジタルサイネージを利用した、事業の周知。 |

(6) 第9回からくり儀右衛門大賞小中学生創作作品展

「久留米市理科作品展」を久留米シティプラザにて開催し、からくり儀右衛門大賞の募集および作品選考会を実施した。新型コロナの影響により、表彰式は受賞者在籍校で実施し、選考作品については市のホームページ上で公開した。

(7) 第28回全国重要無形文化財保持団体秀作展

重要無形文化財久留米絃を有する久留米市が加盟している全国重要無形文化財保持団体協議会(略称「全重協」)において、美濃市にて開催された。

会期：令和4年10月27日（木）～11月7日（月）

会場：岐阜市メディアコスモス「みんなのギャラリー」

2. 協働・支援活動

(1) 出前講座

市民向け講座として実施している「出前講座」は、全庁的に取り組んでいる制度で、文化財保護課では「私のまちの歴史と文化財」「歴史を体験」および「久留米入城400年プラス1」の3つのメニューを担当。計49回の出前講座を実施した。

①私のまちの歴史と文化財

開催回数：29回

受講人数：812名

主な内容：校区コミュニティセンターの委嘱学級や市民団体を対象に、校区の歴史、久留米市の歴史、また個別テーマを設けて講座を開催。

②歴史を体験

開催回数：6回

受講人数：210名

主な内容：小学校の土曜塾が主なもので、勾玉づくり1回、石臼体験1回を開催。

③久留米入城400年プラス1

開催回数：14回

受講人数：231名

主な内容：校区コミュニティセンターの委嘱学級や企業、市民団体を対象に、主に久留米城や城下町の成り立ち、久留米藩主有馬氏に関する講座、有馬記念館での解説などを開催。

(2) 学芸員実習受け入れ

受入期間：令和4年8月17日(水)～令和4年8月25日(木)（うち7日間）

受入人数：久留米大学生2名

実習内容：久留米市文化財保護課の業務の中から、調査・保存・活用・公開に関する業務について、以下の5項目を中心に実習を行った。

①教育普及の取り組み：出前講座「勾玉作り体験」従事（指導補助）

②展示実習：展示解説の作成。展示設営補助作業

③歴史資料の取扱い：収蔵資料を扱った実務作業

④発掘調査出土品整理：出土品の洗浄から展開、接合まで実務作業

⑤文化財写真撮影：考古資料の撮影方法について座学及び撮影作業

(3) えーるピア久留米関連

公益財団法人久留米市生きがい健康づくり財団より依頼を受け、財団主催の社会貢献事業「見る！知る！くるめミュージアムセミナー」の一環として、「筑後川の流れとともに生きる人々の営み-弥生時代編-」展を開催、出土遺物や写真パネルを展示した。また、会期中に講演会を実施した。

展示会期：令和5年3月15日（水）～令和5年3月26日（日）9時30分～17時

展示会場：えーるピア久留米（生涯学習センター） 市民ギャラリー

講演日時：令和5年3月25日（土）10時～12時

講演会場：えーるピア久留米（生涯学習センター） 301・302 学習室

講師：文化財保護課職員

3. 刊行物等

(1) 久留米市文化財調査報告書

11冊の文化財調査報告書を刊行。

1. 久留米市文化財調査報告書第 437 集『筑後国府跡 - 第 298 次発掘調査報告 - 』
2. 久留米市文化財調査報告書第 438 集『庄屋野遺跡 - 第 9 次発掘調査 - 』
3. 久留米市文化財調査報告書第 439 集『安武地区遺跡群 2 -安武三反野遺跡第 5・6 次調査 - 』
4. 久留米市文化財調査報告書第 440 集『山王古墳群 - 第 1・2 次発掘調査 - 』
5. 久留米市文化財調査報告書第 441 集『夫婦木間歩 - 第 1 次発掘調査 - 』
6. 久留米市文化財調査報告書第 442 集『令和 4 年度久留米市内遺跡群』
7. 久留米市文化財調査報告書第 443 集『十間屋敷遺跡 - 第 11 次発掘調査報告 -
久留米城下町遺跡 - 第 30 次発掘調査報告 - 』
8. 久留米市文化財調査報告書第 444 集『高三瀦遺跡 - 第 12 次発掘調査報告 - 』
9. 久留米市文化財調査報告書第 445 集『早津崎五反田遺跡 - 第 1 次発掘調査報告 - 』
10. 久留米市文化財調査報告書第 446 集『筑後国府跡 - 第 312 次発掘調査報告 - 』
11. 久留米市文化財調査報告書第 447 集『国指定史跡 筑後国府跡 - 国司館地区 2 -』

(2) その他の刊行物

① 収蔵館ニュース

収蔵資料の調査・収集・保存・活用について紹介するため、平成元年度より年 1 回発行。同 17 年度に『仮称 久留米歴史博物館準備だより』より改題。令和 4 年度は第 19 号を発行（改題通算 45 号）。

② 歴史のまち久留米・ストーリーシート

歴史のまち久留米・ストーリーシート 9 「はじまりは足袋 ゴムの街久留米の歩み」を発行

(3) 文化財説明板作成設置

例年、久留米市内の指定文化財を中心に、文化財を解説する案内板を設置・修繕している。令和 4 年度は「久保遺跡」、「久留米城下町遺跡」の説明板 2 基を新設。

また、老朽化により判読できないものなど 4 件を改修した。対象は、県指定有形文化財「石造青面金剛像」、市指定史跡「東櫛原今寺遺跡」、藤山町の「藤山甲塚古墳」、田主丸町地徳の「善院古墳」である。